

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩スマート保育所大森
施設所在地	東京都大田区山王3-1-7GS大森ビル1階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

紙

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

1歳児は、紙をちぎったり丸めたりする中で、やぶれる感触や形の変化を楽しむ姿が見られる。2歳児は、折る・重ねる・並べるなど、目的をもって素材を使い分けながら遊ぶ姿が多く見られる。少人数で過ごす保育環境の中で、保育者がそばで見守ることで、子どもは安心して紙に触れ、繰り返し試す姿が育まれている。紙という身近な素材に繰り返し触れていく過程で、手指の感覚や音、形の変化などに気づき、子どもなりの発見や驚きが生まれている。室内での遊びや生活の中で、子どもの興味や関心に合わせて紙の種類や大きさ、量などを選択できるように環境を整え、紙を通して表れる子どもの姿を丁寧に見取りながら、すくわくプログラムの研究として日々の保育に生かしていきたいと考え、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

合計6回(8月1回、9月1回、10月2回、11月1回、12月1回)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

活動では複数の紙を用意し、子どもたちが違いを感じながら自由に選択することができるようにした。また、製作やちぎり遊びを通して、紙の性質の違いを感じられるようにした。他にも、絵本コーナーを見直し、定期的に絵本の入れ替えをしたり落ち着いて読むことができるよう場所を変更したりした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【②問いを考える】

絵本の読み聞かせを行う中で「つぎなにかな」と尋ねたり、保育者も一緒に反応したりするなどして、子どもたちが期待をもって関われるようにした。また、ページをめくる中で感じる紙の音や手触りにも気づけるよう、紙に触れること自体を楽しみながら絵本の世界に入り込むことができるようにした。

【③環境をデザインする】

- ・ 様々な素材の絵本を多く取り揃え、常設することで、紙の違いに触れられるようにした。
- ・ おままごとコーナーの近くに食べ物に関連した絵本を置くなどして、子どもたちが遊びを広げていくことができるようにした。
- ・ 子どもたちの発達や興味に合わせて、適宜絵本の入れ替えを行った。

【④探究活動を実践し、記録する】

常設のコーナーとしたり、日常の中で絵本を読む時間を設けたりしながら、子どもたちがどのように遊ぶのか観察したり、子どもたちの様子を写真に収めたり日報などに記載したりしながら、日々記録した。

【⑤振り返る・共有する】

会議の中で本活動を固定の議題とし、写真などを使いながら子どもたちの姿や紙との関わりについて定期的に振り返る機会を設けた。また、合同で過ごす時間の様子も含め、コーナーごとの子どもたちの関心や発見について話し合い、共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

Aちゃんが絵本を読んでいる際にBくんが隣に座ったが、初め「やめて」「まってね」と絵本を両手で守るように伝えていた。その後Bくんは一度ソファのうしろへ行き絵本の中に出てくる食べ物を食べる真似をした後、Aちゃんに対して「おいしいね」と伝え、Aちゃんは笑顔になり「おとなりどうぞ」とソファを指さしていた。Bくんが隣に座ると、2人で顔を見合わせながら食べる真似をし、その後はお互いの口元に手を持っていき、食べ合っこをする姿が見られた。絵本が終わると「ごちそうさま」と手を合わせ、表紙に戻ると「いただきます」と言いながら、何度も繰り返し絵本を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

1つの絵本から子どもたち同士のかかわりだけでなく「いただきます」「ごちそうさま」などの日常的なマナーの取得にも繋がっていて、子どもたちの遊びが大きく広がっていく様子に驚いた。また、子どもたちの様子を観察していると自分の気持ちを主張するだけでなく相手の様子を見ながら言葉や行動で意思表示をしており、仲立ちを行うだけでなく状況に応じて様子を見守ることも大切だと改めて感じた。今後も子どもたちの姿に丁寧に着目しながら、一人一人に合ったかかわりや環境設定を行っていきたい。